

# おも 思いもよらない でんどう 伝道のめし



きょうかいきかんし  
教会機関誌

ルーシー・スティーブソン

(ほんとうにあったお話をもとに書かれました)

エドウィン・ダルマラジュは、笑顔で空港を出て日の当たる方へと歩いて行きました。ヤシの木の並木道が見え、近くの市場のにおいがします。

エドウィンとつまのエルシーはインドにもどってきたのです。二人はサモアに住んでいましたが、また家にもどってこられたのです。

でも、エドウィンとエルシーはただ訪問するためにここに来たわけではありません。二人は、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として奉仕するようめされたのです。エドウィンは少しきんちょうしていました。でも、天のお父様が助けてくださると知っていました。天のお父様はすでにたくさん二人を助けてくださっていました。

エドウィンとエルシーはインドで生まれました。でも、エドウィンが初めて教会について聞いたのは、アメリカの学校に通っているときでした。一度、その教会に行きました。モルモン書も読みました。でも、インドにもどってくると、教会についてわすれてしまいました。

数年後、エドウィンとエルシーは、サモアに引っこすべきだと感じました。エドウィンは昆虫科学者で、サモアの島で研究する仕事を引き受けたのです。サモアで、エドウィンとエルシーは宣教師に会いました。エドウィンはまたモルモン書を読み、何か特別なものを感じました。エルシーもモルモン書を読み、二人は息子たちやむすめたちとともに



にバプテスマを受けることを選びました。

教会に入ったエドウィンが最も望んだことは、インドの家族に福音を学んでもらうことでした。問題は、インドには教えてくれる宣教師がないことでした。エドウィンとエルシーは教会本部に手紙を書き、宣教師をインドに送ってほしいとたのみました。

その後起こった出来事にとってもおどろきました。スペンサー・W・キンボール大管長は、インドで宣教師として奉仕するよう、エドウィンとエルシーをめしたのです。

そして今、二人はインドに来ました。

インドで最初におとずれしたのは、エドウィンの兄弟の家でした。エドウィンの両親ときょうだいたちもそこにいました。エドウィンとエルシーはすぐにかれらを教え始めました。家族は、喜んで福音を学びました。

数週間後、エドウィンと家族は兄弟の庭のプールの周りに集まりました。プールはきれいにそうじされ、ペンキをぬられ、きれいな水がはってありました。みんな、白い服を着ていました。女性たちはかたにひだのある、ゆったりとしたサリー〔インドの伝統的な服〕を着ていました。男性たちは、ゆったりとしたインド風のジャケットとズボン姿でした。

エドウィンはお父さんと一緒にプールに立ちました。「サムエル・デビッド」とエドウィンは言いました。「わたしはイ

エス・キリストよりけんのうを受けたので、御父と御子とせいられの御名によって、あなたにバプテスマをほどこします。」

エドウィンはお父さんにバプテスマをほどこしながら、うれしくなりました。次にお母さんにバプテスマをほどこすと、もっとうれしくなりました。その日が終わるまでに、エドウィンは18人の人にバプテスマをほどこしました！

翌日、エドウィンとエルシーは電車に6時間乗って、さらに親戚を訪問して福音を教えました。エドウィンは近くの川でさらに4人の親戚にバプテスマをほどこしました。

とうとう、エドウィンとエルシーは16時間電車に乗ってエルシーの両親をおとずれました。エルシーのお父さんは、

別の教会の指導者でした。バプテスマは受けませんでした。が、モルモン書は良い本だと思い、モルモン書をテルグ語にほんやくするのを助けてくれました。テルグ語は、インドで話されている言葉の一つです。

エドウィンとエルシーが伝道を終えたときには、インドで最初の教会の支部を始められるだけの新会員がいました。エドウィンとエルシーはうれしい気持ちでサモアにもどりました。天のお父様が二人を伝道に送ってくださったことに感謝しました。●



エドウィン・ダルマラジュとエルシー・ダルマラジュは、1978年にインドで伝道しました。今、インドでは美しい神殿が建設中です！